

久保・長江中学校区の学校再編に係る第2回山波小学校区地域説明会議事録

1 日 時 令和5年6月6日（火） 18:00～19:05

2 場 所 山波小学校体育館

3 出席者 地域住民 2名
教育委員会事務局 11名

宮本教育長、川鱈教育総務部長、小柳学校教育部長、末國庶務課長
三浦学校経営企画課長、石本教育指導課長、石川庶務課管理係長、
宮崎学校経営企画課企画振興係長、玉里庶務課管理係主任
岡田庶務課管理係主任、才谷教育指導課指導主事

4 進 行

担 当	内 容
宮本教育長	<p>18:00～</p> <p>1 開会</p> <p>2 教育長挨拶</p> <p>こんばんは。この4月に教育長に就任いたしました宮本佳宏と申します。どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日はお忙しい中、地域説明会にお集まりいただきまして誠にありがとうございます。私の就任前のことではございますが、3月29日に第1回の地域説明会を開催いたしました。</p> <p>教育委員会の再編案についてご説明を申し上げ、多くのご意見をいただいたと聞いております。本日は改めて教育委員会の案をご説明申し上げ、ご意見を頂戴したいと考えております。前回の説明会では小中一貫教育校ではどんな学校を目指そうとしているのか、どんな教育を行おうとしているのかの説明が不十分であったと感じております。そこで本日は、目指す学校像や教育内容、学校の施設などについて、より具体的に説明をさせていただきたいと思っております。</p> <p>そして、私の方からも学校再編について教育長の思いや考えも述べさせていただけたらと考えております。短い時間ではありますが、実りある会になればと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p> <p>本日の説明ですけれども、皆様方には最初ということにはなりますが、11月22日に行った説明の内容とほぼ同様な内容で説明させていただこうと思っております。それからまた保護者の方の質問や意見もこれまでありました。それについての、市教育委員会の回答もお示ししながら、全体として約2時間、説明は40分程度となりますが、進めさせていただきたいと思っております。本日が有意義な会となりますことを祈念いたします。よろしく願いいたします。</p>
教育委員会事務局（司会）	<p>事務局自己紹介</p> <p>まず初めに資料の確認をさせていただきます。まず、本日のレジメが1枚目になります。次に資料1が前面に映されたスライド資料にな</p>

<p>三浦学校経営企画課長</p>	<p>ります。資料2がこれまでの経緯と今後の予定となります。資料3がこれまでの説明会等の参加状況になります。資料4が3月25日から3月30日までに行った地域説明会での意見、主な質問になります。本日はこの後、教育委員会事務局からの説明を約40分行い、その後学校再編について教育長の思いを述べさせていただきます。その後、質疑応答を行いたいと考えております。本日の終了時刻は20時を予定しておりますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>3 説明</p> <p>これまで育友会・PTA役員と教育委員会との意見交換会や保護者・地域の説明会で説明してきましたとおり、現在提案している新しい学校は、これからの尾道の学校教育をリードする小中一貫教育校です。新しい学校では、「子供たちが切磋琢磨しながら生き生きと学ぶことができる学校」、「子供たちの夢の実現や社会的自立に向けた土作りのできる学校」を目指し、教育環境や教育内容を整備し、尾道教育のスタンダードとして、市内小中学校の教育環境や教育内容の充実を図っていく上でのモデルにしていきたいと考えています。</p> <p>学校再編の案については、2月5日(日)にしまなみ交流館にて保護者説明会を開催、また、3月25日(土)から3月30日(木)まで、小学校区ごとに地域説明会を開催し、様々なご意見をいただきました。本日は、各地域説明会の様子をお伝えするとともに、保護者説明会や全ての地域からご質問いただきました、小中一貫教育校の教育内容等について説明し、改めてみなさまにご理解をいただきたいと考え、第2回地域説明会を開催させていただきました。よろしくお願いいたします。</p> <p>本日は、最初に、改めて、学校再編案について説明いたします。次に、小中一貫教育校の教育内容について、具体的に説明いたします。また、小中一貫教育校の施設について、そして、これまでの経緯といただいたご意見について、説明いたします。</p> <p>まず、学校再編案についてですが、昨年11月22日にご覧のような再編案をお示ししました。久保小学校・長江小学校・土堂小学校は、1つの学校に統合、山波小学校は、1つの学校として存続、久保中学校と長江中学校は、1つの学校に統合し、久保小学校・長江小学校・土堂小学校の統合校と山波小学校の卒業生が、進学します。</p> <p>これらの3つの学校は、小中一貫教育校とし、令和7年4月開校を目指します。</p> <p>久保小学校、長江小学校、土堂小学校を統合した新しい小学校は、現在の長江中学校のグラウンドに、久保中学校と長江中学校を統合した新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。いずれも令和9年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。</p> <p>これまでの取り組みですが、平成21年度から平成31年度にかけて、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の耐震化の検討を行ってまいりました。進入路が狭いこと、児童が居ながらでの工事が困難であること、改築や減築が必要な工事が生じたこと、また期間中に、土砂災害防</p>
-------------------	--

止法に基づく警戒区域等の指定があったことにより、新たな校舎が建築可能な場所が限られ、現在地での耐震化を断念し、あわせて、中学校を含めた検討を開始しております。令和3年度において、安全性の確保を目的として、仮校舎への移転を行いました。

その後、今回提案させていただいております、久保・長江中学校区学校再編の検討を行いました。

仮校舎移転前より、中学校を含めた検討を行ってまいりましたが、学区内の児童生徒の推計を考慮し、よりよい教育環境の実現を目的として検討を行っております。

検討に当たっては、次の3点を基本的な考え方として、検討を行いました。

①の安全性の確保については、学校施設を含め、公共施設は、利用者の安全を考慮し、土砂災害警戒区域、特別警戒区域内に新たな整備は行わないこと。従って、敷地内と、周囲の大半が土砂災害特別警戒区域にあたる、長江小学校と、土堂小学校の敷地には、新たな施設整備は行わないこと。

②校舎の耐久性については、文部科学省は、大規模改修を行った上で、80年建物を使用することを示していますが、それ以上の建築年数が経過している場合、耐震化をしても、長期にわたり使用することは困難であるため、現在の校舎を、耐震補強して使用し続けることは行わないこと。久保小学校と、土堂小学校の校舎は、築80年が経過しており、校舎の継続使用は行わないこと。

そして、③適正な学校規模の確保については、尾道市教育委員会 は、新たな学校施設を整備する際は、よりよい教育環境を確保するため、1学年複数学級となる学校規模での再編を行う方針としていること。久保小学校と長江小学校は、今後も全学年1学級が継続し、土堂小学校は、全学年が1学級となる見込みであること。また、長江中学校も、全学年が1学級となる見込みであることから再編の検討が必要と判断しました。なお、山波小学校は、今後も1学年複数学級を維持する見込みであり、令和7年度での学校再編は行いません。

また、小中一貫教育校についてですが、学校の組織としては、3つの学校は従来通りそれぞれが独立した学校です。新しい小学校、山波小学校、新しい中学校のそれぞれに、校長と教員組織があり、児童はそれぞれの小学校を卒業した後、指定学校となる新しい中学校に入学します。現在、小学校と中学校は、それぞれが目指す子供像を設定し、6年間または3年間の教育課程を編成して教育活動を行っていますが、小中一貫教育校では、小学校と中学校が、共通の学校教育目標の下、目指す子供像を共有し、義務教育9年間を通した系統的な教育課程を編成します。義務教育9年間で教育課程を考えることにより、これまで以上に魅力的で子供たちに力を付けることのできる教育が可能になると考えています。また、教育研究の研究主題や、生徒指導規程等、学校運営上必要な事項の多くが小学校と中学校で共通となるため、授業や生徒指導において、教職員が、共通の指導方法で9年間児童生徒に対応することが可能となります。

画面に出ているパンフレットは、これまでの説明会でお示ししてい

<p>石本教育指導課長</p>	<p>るものです。</p> <p>このパンフレットで示している内容は、実現できるように検討しています。例えば、「知」確かな学力では、高学年への教科担任制の導入、「徳」豊かな心では、おのみち学、郷土愛の充実、「体」健やかな体では、健康で活力ある児童生徒の育成、「信頼」地域に開かれた学校づくりでは、新たな中学校区をコミュニティ・スクールとし、魅力ある学校にしていきたいと考えています。</p> <p>次に、小中一貫教育校の教育内容について説明します。</p> <p>初めに、小中一貫教育校で目指す児童生徒のゴールイメージです。</p> <p>小学校での学びの集大成として、「おのみち学」等で学んだことを発表する「伝統文化祭」のイメージです。このような場を設定し、保護者や地域の方と、子供たちの成長を喜び合いたいと考えています。中学校では、9年間の探究的な学びの集大成として、「まちづくり政策提案発表会」のイメージです。夢の実現や社会的自立に向け、地域に貢献することのできる生徒の姿を、保護者や地域の方に見ていただきたいと考えています。</p> <p>これから新しい学校の教育内容面について現在構想していることを、「目指す子供像」「教育資源」「教育内容」の3点について、説明させていただきます。</p> <p>まず、小中一貫教育校の目指す子供像は、「郷土を愛し、心豊かにたくましく生きる子供」と考えています。ここには「子供たちが尾道で育ち学んでよかったと誇りに思い、自分の可能性に挑戦し、豊かな人生を切り拓いてほしい」という願いを込めています。</p> <p>9年間の学びで育てる力は、小中一貫教育校の出口を意識し、15歳の生徒に身に付けさせたい力として、広島県教育委員会が、自己実現を図っていくための基礎を義務教育段階で培っていくために設定している力と同様、「自己を認識し、人生を選択し、表現できる力」を育みたいと考えています。</p> <p>また、育てたい資質・能力として、学んだことを人生や社会に活かそうとする「学びに向かう力、人間性」等、実際の社会や生活で生きて働く「知識及び技能」、未知の状況にも対応できる「思考力、判断力、表現力」等と考えています。</p> <p>これは学習指導要領上示されている資質・能力であり、尾道教育総合推進計画の中でも、尾道の子供たちに育成すべき資質・能力として掲げているものです。小中一貫教育校においても、これら3つの力をバランスよく育んでいくことが大切だと考えています。</p> <p>これまで説明した資質・能力等を育成していくため、尾道らしさ、尾道ならではの視点を持って学びの在り方を考えています。そのために、尾道の教育資源である歴史、文化、産業等を確認しておきます。</p> <p>「歴史から学ぶ」として、港町尾道の誕生と発展です。平安時代の第1期黄金時代では、尾道が年貢米の積出港となり、江戸時代の第2期黄金時代では、北前船の寄港地、西国街道や出雲街道による人と物流の交流点となり、明治時代の第3期黄金時代では、鉄道開通、銀行設立、市制施行等が行われ発展していきました。</p> <p>「文化・産業から学ぶ」として、魅力ある歴史文化の継承です。尾道</p>
-----------------	---

には、囲碁文化、茶文化、石工文化等が発展し、歴史的遺産としての国宝や多くの重要文化財があります。祇園祭、山波とんど行事（神明祭）などの祭りも伝統文化として継承されています。また、尾道は3つの「日本遺産」、箱庭的都市尾道、村上海賊、北前船の認定を受けています。

そして現在、未来へ向けて、第4期黄金時代を自分たちが作っていくんだという気概に満ちた、世界とつながるものづくりや日本に誇る農林水産業が行われています。

「先人から学ぶ」として、尾道に誇りを持ち、尾道を愛し、尾道の発展に貢献された、平山角左衛門、三木半左衛門、山口玄洞（げんどう）などの先人や、自分の信念を持ちやり抜き、美術界、文学界の発展に貢献された、小林和作、林芙美子などの先人が、まちづくりや芸術文化について導いてこられ現在の尾道の発展につながっています。

このような尾道独自の視点を踏まえた学びを実現していくためには、次の3つを意識して教育内容を創っていくことが大切であると考えています。

1つ目は、「グローバルな学び」（世界を意識した学び）と、「ローカルな学び」（尾道という地域を意識した学び）を組み合わせる教育内容を創造していくことです。

2つ目は、「個別最適な学び」（児童生徒が自分の目標や進度にあったやり方で学習を進めたり、自分の興味関心のあるものを選んで学習を進めたりする学び）と、「協働的な学び」（学級に限らず、異なる学年の児童生徒や地域の人々などと協力しながら、主体的に問題解決していく学び）を組み合わせることで、1時間の授業や単元を工夫した教育内容を創造していくことです。

3つ目は、1つ目の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と2つ目の「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせることで9年間の学びを創造していくことです。

具体的には、「グローバル」な学びの創造として、世界につながる英語教育やキャリア教育を充実していきます。

英語教育では、小学校1年生から外国語活動を導入したいと考えています。1・2年生は年間20時間程度、学級担任とALTまたは非常勤講師により授業を展開し、3・4年生の外国語活動につなげていきたいと思っています。早期に導入することにより学ぶ意欲やコミュニケーション能力の向上に繋がることを期待しています。

近隣高等学校と連携することにより、小中学校ともに校内暗唱大会、スピーチコンテスト、ディベート等による表現力の向上が期待できます。ALTを中学校に常駐させることに加え、市教委ALTを小中学校へ派遣することで、小学校では学期に1日程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュデーを、中学校では学期に1週間程度、英語以外の教科も英語での授業を試みるイングリッシュウィークが設定できないか考えています。英語以外の教科でも英語に親しむことにより児童生徒の興味・関心が高まったり言語能力が育まれたりしていくものと考えています。

また、友好交流都市である台湾嘉義市の小中学校とオンラインによ

る交流を続けるとともに、英語圏の小中学校とのオンラインによる交流も検討していき、コミュニケーション能力や発信力の向上を目指していきたくと考えています。

グローバルな学びでのキャリア教育では、地元企業や事業所等との連携により職業観、勤労観を育成していきます。

小中学校では、地元企業や事業所等への訪問学習や出前授業を企画、実行し、児童生徒が企業等の技術や、職業人としてのキャリア等を直接学ぶことを繰り返し、視野を広げ夢や志につなげてほしいと考えています。また望ましい職業観、勤労観を育成していきたくと考えています。

次に、「ローカル」な学びの創造として、総合的な学習の時間を核として、ふるさと「尾道」の特色ある伝統や文化を学ぶ「おのみち学」を充実していきます。

これまで各学校で引き継がれてきた伝統である、能、神楽、茶道、太鼓等の教育活動を再構成し教育内容とすることで、郷土を愛する心を育てます。

例えば、新しい小学校では、能や太鼓、山波小学校では神楽、中学校1年生では茶道というように小学校の地域性や児童生徒の発達段階も考慮しながら、礼儀作法を身につけたり、日本の伝統文化を感じたりすることができるな教育内容を創っていきたくと考えています。また、縦割りでの教育活動を取り入れ、児童同士、生徒同士の関わりを深めていくことや、中学生の姿から小学生が「あこがれ感」をもつような教育活動も仕組んでいけたらと考えています。

ローカルな学びのキャリア教育では、中学校では、地元企業等への職場体験活動や市内の高等学校や尾道市立大学への訪問を通じた進路学習を行い、進路指導の充実を図り社会的自立に向けた力を育てていきます。

また、現在と同様に、小学校4年生で2分の1成人式を、中学校2年生で立志式を実施し、自らの志を立て、これからの人生を逞しく生き抜こうとする自覚・意欲を高めてほしいと考えています。

小学校6年生の2学期には、小学校段階の「おのみち学」等で学んだことを保護者や地域の皆様へ発表する場として、「伝統文化祭」のような発表会の開催を目指したいと考えています。この画面では、開校2年目の令和8年10月24日に開催となっておりますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

小学校では、現在土堂小学校をはじめ市内数校の小学校で実践している、学びの「基礎・基本」を大切にした「モジュール授業」を展開したいと考えています。これまで積み上げてきている土堂小学校の実践を活かし、林芙美子、志賀直哉等の文学作品を取り入れた音読教材や尾道の産業やデータを取り入れた教材の開発ができればと考えています。

次に、9年間の「グローバルな学び」「ローカルな学び」と「個別最適な学び」「協働的な学び」を組み合わせた学びの集大成として、まちづくりへ参画し、商工業、観光、農林水産業、教育、医療、福祉等の視

点から生徒自ら政策を提案していくような教育内容ができないか考えています。

中学校3年生のゴールイメージを中学校1年生の早期に持たせ、学習課題を設定（まちづくりへの政策提案をする分野を決定）させます。職場体験活動や進路学習も政策提案に向けた学習内容に組み込み、総合的な学習の時間を核とした「おのみち学」を充実させていきたいと考えています。また、これらの学習を通して、15歳の生徒に身に付けさせたい力を育成していきたいと考えています。中学校3年生の2学期には、9年間の「おのみち学」等で学んだことの集大成を保護者や地域の皆様へ発表する場として、「まちづくり政策提案発表会」のような発表会の開催を目指したいと考えています。この画面では、開校2年目の令和8年11月20日に開催となっていますが、令和7年度に実施可能ということになれば開催していくということも考えられます。

スライドでは触れていませんが、中学校の部活動について、今後の休日の地域移行の動向にもよりますが、運動部、文化部の枠を超えて、地域活性化部というような地域に根差し地域を活性化させる目的を持って部活動を構成してみるのもいいのではと考えています。例えば、地域貢献部（ボランティア部）、伝統文化部（能、神楽、太鼓、茶道等）、ダンス部等が考えられると思っています。

以上のように、小中一貫教育校の柱になり得る教育内容について提示しました。これらは現段階の検討内容であるため、そのまま実現できるかは分かりませんし、新たなアイデアや考えによって再構成されることもあると思っています。教育委員会としては実現させていきたい内容となっていますので、皆様方から意見をいただきながら精度を高めていきたいと考えています。また、今後統合に向けての機運が醸成されていけば、6校の教職員の皆さんと教育課程の編成やその教育内容について、これまでのパンフレットの内容や今日提示した内容も含め議論していきたいと考えています。

また、お示しした教育内容を実現するためには、学校だけではできません。小中一貫教育校では、説明しました通り、地域を基盤に置いた教育を行ってまいります。そのため、小学校区の枠組みや学校の場所は変わっても、また、山波小学校においても、子供たちが地域に向いたり、地域の方をお招きしたりして、これまで以上に、地域との関係を大切にまいります。そのため、地域のみなさまのご協力が必要となります。ご理解をお願いいたします。

岡田庶務課主任

ここからは新しい学校の施設について説明いたします。学校再編により、冒頭からの説明のとおり統合小学校、統合中学校を設置します。

新しい統合小学校は、現在の長江中学校のグラウンド側のみを敷地とし、現在の長江中学校屋内運動場は老朽化のため建て替えとし、屋内運動場を校舎の中に配置した、5階建ての校舎を建築します。校舎の供用開始は令和9年度からとなります。その後、屋内運動場のあった位置にプールを新設します。プールは令和11年度からの供用開始となり、それまでは現在の長江小学校のプールを使用します。

新しい中学校は、現在の久保中学校グラウンドに建設します。3階建ての見込みで、令和9年度の使用開始をめざします。山波小学校は、これまで通り、現在の校舎を使用します。

中学校整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間生徒は、現在の久保中学校校舎と久保小学校仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年度から新校舎での学習が開始されます。その後、既存校舎の解体等を行い、工事は終了します。

小学校整備スケジュールです。校舎は、令和5年度から6年度にかけて設計を行います。令和7年4月から統合校が開校となり、そして、令和7年度から8年度までの2年間で工事を行い、その間、児童は、現長江中学校の校舎と長江小学校の仮校舎で学びます。令和8年度末で新校舎が完成し、令和9年4月から、児童は新しい校舎で学ぶこととなりますが、令和9年度から10年度にかけて、現在の屋内体育場を解体し、プールの新築工事を行います。プールは令和11年度からの使用をめざします。

ここまで、施設の概略を説明しました。

ここからは、先ほどご説明しました新しい学校での教育を実現するため、施設面で新しく取り入れる機能を説明します。大きく3つのものを取り入れていく予定です。

- ① ロッカースペース導入による専門科目教室の設置
- ② ワーキングスペースの設置
- ③ プロジェクタ方式の黒板の導入

です。詳細については、次のとおりです。

まずは、①ロッカースペース（ホームベース）導入による専門科目教室の設置ですが、これは、今まで各教室に配置しておりました個人のロッカーを、ロッカースペースとして別の場所に設置し、教室からロッカーをなくします。一日の始まりは、荷物をロッカースペースへ収納し、1時間目の授業は時間割教科の教室からスタートします。このことにより、今まで普通教室としか機能していなかった教室を、国語や英語や社会などの専門科目教室として使用することが可能です。各教室内は、その教科に特化した掲示や備品を整理でき、中学校をはじめ、小学校における教科担任制への手助けとなると考えています。

この度提案しております案の検討にあたり、教育委員会も他校の視察を行っており、先進的な取り組み例を参考にしております。

例えば、こちらは叡智学園の例です。特徴的な校舎の作りで全体像は取り込めませんが、水色の教室スペースに対し、赤のロッカースペースを設置し運用しております。

例えば、新しい中学校の整備イメージですが、従来までであれば、こちらのようなレイアウトが考えられます。多くは、64㎡の普通教室を整備し、各学級のクラスルームがあり、ロッカーも教室内へ設置している形状です。

こちらが、新しい学校のレイアウトイメージです。ホームベースと呼ぶロッカースペースを各学年1スペース設けます。各教室は100㎡

程度とし、各教室のしつらえを教科ごととし、専門科目教室の充実を図ります。自分のホームルームは設置せず、教室の多様な仕様が可能になります。また、1年1組等のクラス編成は行いますが、1年1組の教室を固定しない、朝夕のホームルームは1時限、最終時限の教室にて実施するというイメージになります。

次に、②ワーキングスペースの設置です。これは、スライド17“協働的な学びの実践”のため導入するものです。これからの教育は、自分でテーマを設定し課題を探究するスタイルへと変化しており、グループワークを行うスペースの確保を行う予定です。イメージとしては、図書室付近にスペースを創出し、グループワーク中に図書室やタブレット端末で、自分で調べ物を行うイメージです。またこれに合わせて、各教室の面積を1.5倍にして、教室内にもスペース創出しております。

叡智学園でのイメージです。

ここでは各教室の真ん中にワーキングスペースを配置しており、図書メディアの近くでは、タブレット等を用いたグループワークが実践されていきました。

こちらが、新しい中学校のイメージです。校舎の端を利用し、ワーキングスペースが創出できるかと考えています。

こちらが教室内のワーキングスペースです。教室の後ろ側にスペースを確保するイメージです。すなわち、ワーキングスペースが複数個所設置でき、新しい教育への手助けになると考えています。

また、画面にあるような、黒板はプロジェクタ方式の導入の考えております。先生の説明用に加え、各児童生徒のタブレット端末を写すことで、グループワークの成果の共有ができることに加え、ホワイトボードとしても利用できます。特にワーキングスペースなど、壁に投影できる特徴を生かし、充実した授業ができることが期待されます。

また、理科室等の特別教室の作りも、実験台を固定化させず、この教室を理科だけでなく、他の用途、例えば少人数教室等としても利用することを想定し、これまで以上に利便性を上げていく予定です。

これらの施設は、中学校施設での本格的導入を考えています。

小学校施設については、従来型の良さも活かしつつ整備を行いたいと考えています。小学校高学年でこれらの機能に触れることができ、中学校生活に移行できるよう体験的な意味合いで小学校では一部の場所で①～③の施設を整備したいと考えています。

さて、学校再編案については、これまで、育友会・PTA役員さんとの意見交換会を中心に据え、ご意見を伺いながら、ご覧のように、保護者や地域の皆様を対象とした説明会や、議員の皆様への説明会を開催してまいりました。保護者・地域への説明会等にご出席いただいた方々の人数等については、資料3の通りです。また、資料4に、3月25日からの第1回地域説明会でいただいた主なご意見やご質問を整理しておりますので、ご覧ください。なお、資料4記載のページ数は、尾道市教育委員会のホームページに掲載しております、各地域説明会の議事録の中の、代表的なページを示しています。第1回地域説明会では、土堂地域では、長江通りの安全確保、地域説明会の在り方、土堂小教育の評価、土堂小学校の現地存続について等、久保地域では、小中一貫教育

三浦学校経営企画課長

校について、通学方法や通学支援について等、山波地域では、小中一貫教育校について、通学方法や通学支援について、統合のメリット・デメリットについて等、長江地域では、小中一貫教育校について、長江通りの安全確保、新しい校舎の地域開放について等のご意見をいただきました。また、今後、6月3日から小学校区ごとに、第2回地域説明会、6月7日に第3回議員説明会を開催する予定としています。

本日は、保護者説明会、地域説明会で、多くの保護者、地域の方からご質問をいただきました、通学路の安全安心の確保について、現段階における取組状況について説明します。

新しい小学校への主な通学路として考えられる長江通りについて、4月20日（木）に、教育委員会、長江小学校長、道路管理者である広島県、尾道警察署、長江小学校の育友会長さんで合同点検を行い、通学路の安全安心のため、何ができるか協議を行いました。その結果、次のふたつについて、実施に向けて取り組んでいくこととなりました。

一つ目は、長江三丁目の千光寺方面との交差点と、旧長江小学校の前に、注意喚起の表示や着色を行うこと、二つ目は、現在、北から途中まで引かれているグリーンラインを、長江口近くまで延長することです。

今後も、どのような対策を行うことができるか検討し、通学上の安全安心の確保に努めてまいります。

また、新しい小学校への路線バスを活用した通学支援については、その可能性を検討しているところです。小学校3km以上としております学校統合の本市の通学支援の基準を踏まえ、通学距離や対象学年など、どのようなあり方が考えられるか検討してまいります。

また、山波小学校区の地域説明会では、山波地域から久保中学校への路線バスを利用しての通学について、今後、バスを利用して通学する生徒が増加することへの不安の声をいただきました。今年度は70名が路線バスを利用して久保中学校に通学していますが、現在の小学校1年生が中学校に入学する令和11年度には、山波小学校の児童全員が新しい中学校に進学する場合、111名まで増加する見込みです。利用生徒の増加にともない、バス車内の混雑が考えられることから、今後も児童生徒数の推移に注視してまいります。

尾道市では、安全な給食提供を継続するために、市内の老朽化した給食施設を計画的に整備していくこと、また令和8年度からは、市内全中学校での全員給食開始を目指し、施設整備事業に着手しています。

現在、関係する小学校では、栗北学校給食共同調理場から給食を配達しており、また、関係する中学校ではデリバリー給食を提供していますが、新たに高須地区に2,500食規模の給食センターを整備し、今の予定では、統合校（久保小、長江小、土堂小、久保中、長江中）のほか、三成小、栗原北小、吉和中、日比崎中、美木中へドライシステムの調理場から給食を配達する計画として事業を進めています。

また、食育については、既に取組の一例として栗原北共同調理場では、調理作業の映像を撮影し、関係校の児童が視聴できる取組なども行っていることから、自校給食の学校のみならず、新センターからの配達となる学校においても、その取組は継続すること、また新施設の中にも調理場内での作業が見学出来るスペースを整備する予定であること

等、いずれの学校においても、同様の食育の取組が出来るよう計画していきます。

また、児童生徒への配慮についてのご要望をいただきました。令和7年度の統合に際しての、児童生徒の不安や負担は大きいものと考えています。そのため、前の年の令和6年度から、児童・生徒間の交流を行うことで人間関係を構築してまいります。また、統合時に中学校3年生となる生徒が、スムーズに新しい中学校に馴染むことができるよう、各学校の授業進度や授業内容を合わせていくとともに、久保中学校と長江中学校にある部活動の種目は、当面維持することで、所属していた部活動がなくなるのではないかという生徒の不安を払拭してまいります。そして、久保中学校と長江中学校の地の利を生かして、部活動の合同練習を行っていくなど、部員同士の交流を深めてまいります。最後に、新しい学校の開校時は、各小学校、中学校から教員を配置することで、児童生徒の不安を可能な限り解消できるよう努めてまいります。

長くなりましたが、以上で終わります。

また、第3回の保護者説明会、地域説明会についても、日時は未定ですが、今後行うことを検討しています。

この後、質疑応答を行います。その前に、今年度就任しました宮本佳宏教育長が、学校再編についての思いを述べさせていただきます。

宮本教育長

ここ山波小学校をはじめ、久保小学校、長江小学校、土堂小学校の4つの小学校、そして久保中学校、長江中学校の2つの中学校はいずれも長い歴史と伝統のある素晴らしい学校ばかりでございます。

そうした中、複雑な気持ちでございますけれども、学習集団の適正な規模を図り、子供たちの教育環境を充実させる観点から、現行の計画で学校再編を進めていきたいと考えております。学校を再編し、新しい学校をつくるにあたりましてまず大切にしたいことは、それぞれの今の学校の良いところ、また、地域の宝、これをしっかり継承し、それを活かした教育を行うということでございます。その上で、変化の激しい社会におきまして、これからの子供たちが未知なる環境や未知なる仕事に対応していかなければいけない、そういった現代の教育課題を踏まえまして、私は新しい学校をこんな学校にしたいと考えております。

子供たちにとりましては、新しい学校が、勉強が楽しいと思える学校、そして山波小学校におきましては、さらに勉強が楽しくなったらと思えるような学校、保護者の皆様にとりましては、新しい学校がこれまでの各学校の良さを活かしながら新しい教育が行われているという、そして山波小学校についても、これまでの良さを活かしながら、新しい教育が行われていると思える学校、地域の皆様にとりましては、地域を大切に、郷土愛を育てながら、新しい教育をしている、そう思っただけのような学校にしたいと、そのように思っています。

そして、県内や県外の先生方から、「尾道にできた新しい学校はすごいそうだ。」「尾道に行って、その学校の子供たちを見てみたい。」「そして、山波小学校においてはさらに教育が進化した。」そんな学校にしていく決意でございます。

先ほどのプレゼンに私の強い思いで組み込みました教育内容がござ

います。お話をさせていただきたいと思います。まず一つ目は、モジュール学習の導入です。モジュール学習というのは、15分程度の短い時間で行う学習で音読・計算・漢字などを繰り返して定着を図る学習を指しています。

新しい小学校や山波小学校でもモジュール学習を行い、子供たちに集中力を養うとともに、基礎基本の学力をしっかりと育成していきたいとそうように思っております。次に新しい教育ということですが、新しい授業イメージについてお話をしたいと思います。

先日、大崎上島町にある広島叡智学園に行きまして、これからの時代に求められる新しい授業の姿を見てまいりました。すると、叡智学園に行っていない教育委員会の職員から、自分も叡智学園に行かせてほしいと次々に声が上がりまして、来月10名の職員が叡智学園に行つて授業を見てくる予定にしております。叡智学園の教育を尾道の公立学校に合う形に再構成し、取り入れていきたいと考えております。叡智学園で行われている授業もとに新しい授業イメージとして、国語の例でお話をしたいと思います。

物語文を学習する際、これまでは、先生が、今日は登場人物が〇〇したときの気持ちを考えましょうと学習課題を示し、教師主導で子供は受身の姿勢になりがちでございました。これからの新しい授業イメージは先生が学習課題を示すのではなく、子供たちが自ら学習課題を決めて主体的に学習を進めていく授業でございます。例えば5人のグループで、まず個別に文章を読みます。次に、グループみんなで考えたこと一人一人学習課題として発表し合い、自分たちのグループの学習課題を決めて読みを深めていく、そういった授業です。この授業は、真の意味で、子供たちの主体性から生まれる学習となります。同じ物語を読んでも、人それぞれに感じ方や考え方が異なり、唯一の正解があるのではなく、いろんな正解があることに気づくと思います。そして多様な見方、考え方、感じ方を尊重できる、そうした感性を養うことにも繋がると考えております。ここで大切なのは、このようなグループがいくつもあるということです。他のグループの考えたことを聞いてみたいという新たな学習意欲が生まれ、互いにグループで発表し合い、気づきを交流し合うことにより、子供たちの学びがより広がったり深まったりして大きな学習成果が期待できます。

次に、グローバルな学びということで、英語教育についてお話をさせていただきたいと思います。これからの子供たちにとりまして、英語力は必須でございます。小学校1年生から英語教育を充実させ、中学校3年生で、全ての生徒が日常の会話ができるレベルの教育を行いたいと考えています。そのためには、学校生活の中で、英語を使って聞いたり話したりする場面を今より劇的に増やしたいと思っております。例えば、全校朝会で校長先生に一部英語で話していただく、子供たちに「今英語で話したけど、どんなことを言ったと思う？」と聞いてみる。その後、日本語ではこういう内容だったんだよということを教える。子供たちが行う給食放送を給食委員会が行っていますが、給食委員会からの放送も基本英語で行う。小学校は学期に1日、中学校は学期に1週間程度、英語だけで生活する時間を意図的に作る。子

供たちが困らないように、小学校1年生から学校生活に必要な英語を教え、子供たちが英語を使って生活できるようにする。オンラインを使って、海外の学校と英語で交流したり、尾道に観光で来られた外国人の方とリアルに英語で交流したりする。こうした教育を実現するため、先生方や子供たちが困らないように、英語の教員やALTの配置、英語の堪能な地域や保護者のボランティアなど、人材の確保をしっかりと考えていきたいと思っています。

次に、ローカルな学び、「尾道学」についてなんですが、皆様の地域には誇るべき歴史・文化・産業があります。そして、偉大な先人の方がいらっしゃいます。こうしたことを教材として活用し、生活科や総合的な学習の時間で、「尾道学」として、探究的な学習を行いたいと考えています。探究的な学習とは、先生が教えるのではなく、子供たちが興味・関心を持ったことを学習の出発点とし、子供たちが学びたいことを学びたい方法でとことん調べ、それをまとめて発表する一連の学習を指します。未知なる環境への適応力を身につけるための新しい教育方法の一つです。尾道学の取組には、地域の皆様や保護者の皆様の協力が必要でございます。先生方の負担を軽減する意味でも、歴史・文化・産業などに詳しい地域、保護者の皆様をゲストティーチャーとして積極的にお招きし、尾道学の充実に繋がりたいと思っております。尾道学のキーワードは地域への貢献です。そのため、学習のゴールとして、小学校では伝統文化祭、中学校ではまちづくり政策提案発表会を考えました。中学生の新鮮かつ独創的なアイデアで、新たな尾道名物や尾道を活性化する新たな産業が生まれるかもしれません。

在校生や先生方への配慮についてお話をします。先生方の意識が統合に向き、労力や時間が取られますので、統合前に卒業する在校生の教育は大丈夫かと心配をされている方もいらっしゃると思います。絶対に在校生の教育がおろそかになってはなりません。

今学校に通って頑張っている在校生の教育に支障がないよう、教育委員会として、在校生や先生方への配慮をしっかりと行いたいと考えています。また、学年の途中から新しい学校に編入することになる。在校生への配慮も当然しっかりと行ってまいります。学校統合するまでの期間における合同学習や合同行事、新しい学校にスムーズに適應できるようにするための体験的な学習を実施いたします。新しい学校における教育内容や教育方法を説明し、子供たちがワクワクドキドキして開校日を迎えることができるようにしたいと思います。

当然、山波小学校の子供たちも新しい中学校にスムーズに適用できるよう配慮してまいります。また、子供たちや保護者の皆様が安心できる教職員の人事、先生方もスムーズに新しい学校で教育活動ができるようにするための研修を、できるだけ負担をかけないような方法で行っていきたいと思っています。

終わりになりますけれども、小中一貫教育校は、これからの尾道の学校教育をリードし、その成果や方法は市内の他の学校へ普及し、尾道全体の教育を新たなステージへと引き上げていくものとなります。それを実現するためには、教育委員会だけでは無理です。地域や保護

<p>教育委員会事務局 (司会)</p>	<p>者の皆様のご理解とご協力が必要です。どうか私達と一緒に新しい学校を創ってまいりましょう。よろしく願いいたします。</p> <p>4 質疑応答 18:53～ 教育委員会事務局の説明に対して、質疑を受けたいと思います。質問のある方は挙手をお願いいたします。</p> <p>ごさいませんでしょうか。それでは、質疑の方を終了させていただきます。</p>
<p>川鯨教育総務部長</p>	<p>最後にせつかくですから、何かざっくばらんにお話ししませんか。感想とかあればお願いします。</p>
<p>住民1</p>	<p>まずもって、教育長をはじめ、いろんな方にお集まりいただきましたのに、地域住民としては2名しかここへいないことを誠に恥ずかしく思います。申し訳ないです。時間割いていただいたのに。さっきもちょっとお話したんですけど、税金がもったいないので、明日お時間がとれるんだったら、次の会場へ行きましようかって言ったんですけど、ちょっと明日用事があって駄目だっということやったんで。ちょっと私、一市民として、今まで新聞では読んで、こういった説明会に初めて寄せてもらって、やっぱり市民として知っとかないといけなだらうなっていうただそれだけで、今日は聞く側の傍聴側で来たつもりだったので、意見自体は持ち合わせてないんですけど。この案が浮かんでから、前任の教育長さんをはじめ、皆さんすごい努力をされてきていることは良く思ってます。そういうふうに乗ってます。</p> <p>子供の数が減少している。学校施設の維持もしていかないといけない。老朽化も始まっている。それから教員の確保をしないといけない。そこへ持ってきて学校教育の方向性も示さないといけない。これらのミックスを兼ねて、これからの子供たちのことを主人公として皆さんお考えになっているエキスパートだと思うんですよ。無責任なことは絶対されてないと思うし、その道のプロやし、自分たちの時代にやったことで、これから汚点も作っちゃいけないと思われてるだろうし、生きがいとしてされていると思います。本当に、今考えておられる計画がよくできたものだと思うんですけど、さっきの教育に関して、メリットばかりおっしゃってますけど、例えば、大きく分けて教育の方向性とか、市の財政とかそんなものも説明に入れてもいいんじゃないかなと思う。税収が少なくなってくるうえにおいてとかいう話も多分あると思うから。</p> <p>あとは、もちろん子供が主体にならないといけないから、子供のことを考えたときに、今までの教育の方向性、財政・予算、さっき言った施設とかもあったけど、こうすることで、メリットは今おっしゃったけれども、デメリットもこんながあるんですよと、そのデメリットについても、実はこういうことで対策を講じて問題ないですよっていうような、分かりやすい説明というか、今でも十分分かりやすいと思うんですけど、私が頭悪いからこういったことを言うかも分かり</p>

ませんけど。

なんて言うんですかね。いい事ばかりじゃなく、こんなこともあるんですけど、ここはこういうことで確保してるから大丈夫なんですよっていうふうなことも交えておっしゃられた方が、説得力があると思います。ちょっといらんこと言いましたけど、すいません。本当に市民として恥ずかしいです。ここに来てないことが。申し訳ないです。

私、24まで京都にいたんです。中学がね、10クラスまであって、1200人のマンモス校やったんですわ。やっぱりいろんな人がいて、先生も多いし、その中で育ってね、今の僕があると思うんですよ。京都にも、言葉悪いけど、ダチがすごく多くて、僕はめっちゃくちゃ悪かってね、悪いのに学級委員とかするちょっと変な奴だったんですけど。それで24でこっちに来て、マスオみたいなので来たんですけど。それから10年間腐ってて、なんでこんな田舎来たんかなと思って。京都に帰りたくて帰りたくて、林芙美子が電車に乗ってて、山陽本線で海が見えたと言って泣いたのがあったでしょ。またこの田舎に来たと思って泣いてたんですわ。逆に、何で尾道のことが好きになったかっていうと、僕は青年会議所に入れと言われて、34で入って、そこから町づくりのこと、地域のことをやりだしてね。それから、友達が100人JCでメンバーがいたらできますよね。祭りごととか地域のこととか町づくりの事業を通じて、いろんな方から、もちろん行政の方とも知り合いましたけど、市内中の方と知り合いになって、やっぱりその文化を通じて、尾道を愛する気持ちがやっとな芽生えてきたっていうか、それで尾道に来てもう40年になるんですけど、尾道市の中で、今何があるのかっていうことが気になって気になってしょうがないし、イベント・祭りごととかあるのは必ず参加することにしてます。尾道の神輿もね、全部担ぎました。祭りっていう祭り、それぐらい尾道は魅力ある町だと思っているし、やっぱり、地元を愛する子供が増える教育をしていただきたいなと思います。好きになったら何とかせなあかんっていうのは思うと思うから、そういう市民を増やしていっただけのような教育をしていただければと思います。何かせつかくの皆様のご大切な時間につまらんことばかり言いましたけど、すいません。以上です。ありがとうございました。応援してます。

小柳学校教育部長

様々な意見をいただいて、本当にお答えできるところと感想みたいな感じでちょっと回答していきたいと思うんですけど。

本当に、今回の学校再編について、今回ちょっとメリットのところを本当に多くやってます。前回の説明の時に、いくらかデメリットの部分を解消するようなことで、学校が一つになったときには、子供たちのメンタル面というのは一番心配なところですから、カウンセリング体制をしっかりさせていただいたり、先程少しありましたけれども、教員の配置をそれぞれの学校から一つの学校に集めたり、子供たちの不安を払拭するような部分をやっとなかなければいけない。多分、ここは大きな統合によるデメリットになるのではないかというふうに思っておりました。やっぱり、ある程度の学習集団の人数という

<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>のは、先程も1200人と言われましたけど、そこまではなりませんけれども、やはり多様な考えとか意見を持った子供たちがも触れ合いながら、やっぱり過ごすっていうことも大事ではないかなというふうに思って、今回提案させていただいております。</p> <p>あと、地元を愛する教育ということでしたけれども、これはまさに私たちが今回新しい学校を創るときの土台、コンセプトだと思っております。ですから、若干地域の捉えというのが、山波地域は山波の小学校区ですね。ここの地域の捉えというのは、これまでと同じように山波と新高山ですけども、今度の統合する3つの小学校は、久保・長江・土堂が小学校区となるので、そこが地域という捉えになります。</p> <p>今度、中学校の方は、久保と長江が一緒になりますから、この2つの中学校区が中学生にとっては地域ということで、やっぱり若干広くなる地域の中で、様々な文化を学んだりとか町づくりに参画できたりと、そういった機会は増えると思いますので、本当に今いただいた地域愛への熱い想いですね、私達も汲み取りさせていただきながら、新しい学校づくりを進めてまいりたいと思います。</p> <p>それでは最後に小柳学校教育部長から閉会の挨拶を行います。</p>
<p>小柳学校教育部長</p>	<p>では失礼いたします。本日は、第2回山波小学校区地域説明会として、主には3月29日に1回目をさせていただきましたが、その後の取組内容について報告させていただいたり、小中一貫教育校の教育内容等について説明させていただきました。</p> <p>本日頂いた意見等も踏まえ、今後も保護者や地域の皆様に新しい学校創りについてさらに理解していただくよう、全力を尽くしてまいります。教育委員会としましては、未来を担う子供たちのために、尾道のモデルとなる小中一貫教育校を、強い思いを持って実現させたいと思っております。今後も、教育内容や施設の充実に向けた視察や研修、通学路の安全対策等に取り組んでまいります。本日は、説明会にお集まりいただきありがとうございました。</p>
<p>教育委員会事務局（司会）</p>	<p>以上で閉会いたします。</p> <p>お集まりいただきました皆様、本日はありがとうございました。</p> <p>19：05 終了</p>